1 文の意味の手がかりとしての真偽値 (§3.1)

(1) 西郷隆盛はいびきをかく。

- (1) は、現在の事柄としては、偽。従って、
  - 文それ自体は**真** (true) でも**偽** (false) でもない。
  - **真偽値** (truth value) は、具体的な状況に応じてのみ定まる。
- 我々は (1) が当時、事実であったかを知らないが、(1) の意味を理解できる。従って、
  - 文の意味が分かるということは、ある状況においてその文の表す**命題** (proposition) が真であったかどうかを知っていることではない。
  - そうでなく、その文の表す命題が真になるためには、どのような条件が満たされればならないかを知っていることである。
  - そのような条件を、**真理条件** (truth condition) という。

2 分析的な文、総合的な文、矛盾 (§3.2)

分析的な (analytic) **文** 文それ自体を見るだけで真偽値が定まる。すべての状況で真の文は、**トートロジー** (tautology)。すべての状況で偽の文は**矛盾** (contradiction)。

総合的な (synthetic) **文** 状況により真偽値が変わる。

(2) トートロジー

a. 父の母は祖母だ。

b. 花ちゃんはやっぱり花ちゃんだ。

(3) 矛盾

a. この文は文ではない。（＝この音列は文であり、この音列は文でない。）

b. 花ちゃんが花ちゃんじゃない！

3 命題間の意味関係 (§3.3)

- 文の表す命題の間の関係を知っておくことは、文の意味の記述・分析に役立つ。
- その中でも特に大切なのが、**伴立** (entailment) と**含意**[*1](implication) の区別。

(4) 【定義】命題 p が命題 q を伴立するのは、以下の 3 点が成り立つときのみである。

a. p が真である時、論理的必然として q も真でなければならない。

b. q が偽である時、論理的必然として p も偽である。

c. これらの関係は p と q の意味から直接得られるもので、発話状況に依存しない。

[*1] 「含み」、「推意」という訳語もある。

(5) a. カツオは波平の盆栽を割った。
b. 波平の盆栽が割れている。

(6) (5a) ⇒ (5b)（「カツオは波平の盆栽を割った。ゆえに、波平の盆栽が割れている。」）のテスト

a. カツオは波平の盆栽を割った。そして、波平の盆栽が割れている。
（(5a) 真、(5b) 真）
b. 波平の盆栽が割れていない。だから、カツオは波平の盆栽を割らなかった。
（(5b) 偽、(5a) 偽）
cf. #カツオは波平の盆栽を割った。しかし、波平の盆栽が割れていない。
（(5a) 真、(5b) 偽）
#波平の盆栽が割れていない。しかし、カツオは波平の盆栽を割った。
（(5b) 偽、(5a) 真）

Q1. (5b) は (5a) を伴立するか？
Q2. (7) の 2 文は相互伴立 (mutual entailment) の関係にある（**同義的** (synonymous) ／パラフレーズである）。それを証明しなさい。

(7) a. 大谷先生は野元先生より年上だ。
b. 野元先生は大谷先生より年下だ。

- 2 つの命題が同時に真であることがない場合、2 つの命題は**両立不可能** (incompatible) であるという。
- 2 つの命題が必ず逆の値を取る場合は**矛盾**し (contradictory)、同時に偽の値を取り得る場合は**反対** (contrary) である。

(8) 矛盾

a. 大谷先生は野元先生より年上だ。
b. 大谷先生は野元先生より年上ではない。

(9) 反対

a. 大谷先生は野元先生より年上だ。
b. 野元先生は大谷先生より年上だ。

Q. (9) の 2 文はどのような場合に同時に偽になるか？

- 上記以外の場合、つまり、2 つの命題間に真偽値上の依存関係がなければ、2 つの命題は独立 (independent) している。

4 前提 (§3.4)

- ある文の表す命題が別の命題の真偽を伝えるとき、それが伴立によるのではなく、含意による場合もある。
- (10) では、波平は「波平の盆栽が割れている」から「カツオが盆栽を割った」を推論。
- この推論は伴立によるものではない。サザエの発話した文自体から来るものでもない。波平のカツオに関する知識による。

(10) サザエ：父さんの盆栽、割れてるわ。
波平： カツオを呼んできなさい。

- 伴立によらない推論だが、言語表現自体に符号化（コード）されている意味関係に**前提** (presupposition) がある。
- 伴立と前提は区別して、記述・分析する必要がある。

(11) 【定義】前提
発話時の**共通基盤** (common ground) の一部であることが言語表現に符号化されているような命題。

(12) 【定義】共通基盤
話し手と聞き手がともに知っている、または信じている、そして共有していることを分かり合っているすべての事柄。

(13) “Take some *more* tea,” the March Hare said to Alice, very earnestly.
“I’ve had nothing yet,” Alice replied in an offended tone, “so I can’t take more.”
（「**もっと**お茶をお飲みになって」三月ウサギはアリスにとっても熱心に言った。
「まだ何も飲んでいないわよ」アリスは心外そうに答えた。「だから、もっとは飲めないわ。」）

- more は、**前提誘発子** (presupposition trigger) 言語表現の 1 つ。
- (13) では、前提の内容が共通基盤になかったため、前提が失敗 (presupposition failure) している。

4.1 前提の見分け方 (§3.4.1)

- p が q を伴立する場合
  - p が真であると言う $= q$ も真であると言う
  - p が真であるか尋ねる、p が真であることを否定する $\neq q$ も真であると言う
- p が q を前提とする場合、どのような場合でも、q が真であると言うことになる。

(14) 伴立

a. 健は恋人と別れたと言った。→ 健は恋人と別れた

b. 健は恋人と別れたと言ったの？
→ 健は恋人と別れたかもしれないし、別れなかったかもしれない

c. 健は恋人と別れたと言っていない。
→ 健は恋人と別れたかもしれないし、別れなかったかもしれない

(15) 前提

a. 健は恋人と別れたことを**後悔し**ている。→ 健は恋人と別れた

b. 健は恋人と別れたことを**後悔し**ているの？ → 健は恋人と別れた

c. 健は恋人と別れたことを**後悔し**ていない。→ 健は恋人と別れた

- 疑問文や否定文でも維持される（**投射する** (project)）のが前提の特徴。
- その他、条件文やある種のモーダル文、「ちょっと待って」という反応の可否も前提を見分けるテストとなる。

(16) a. 直美はベトナム語の勉強を**やめ**た。→ 直美はベトナム語を勉強していた

b. 直美はベトナム語の勉強を**やめ**たの？ → 直美はベトナム語を勉強していた

c. 直美はベトナム語の勉強を**やめ**なかった。→ 直美はベトナム語を勉強していた

d. 直美がベトナム語の勉強を**やめ**たなら、この大学にはいなかっただろう。
→ 直美はベトナム語を勉強していた

e. 直美がベトナム語の勉強を**やめ**たかもしれない。→ 直美はベトナム語を勉強していた

f. A: 直美がベトナム語の勉強を**やめ**た。
B: ちょっと待って。直美ってベトナム語、勉強してたの？
→ 直美はベトナム語を勉強していた

- 前提誘発子にはさまざまなものがある。（教科書 p. 43 参照）
- 多くが通言語的に共通する。
- しかし、個別言語の具体的表現についての詳細な記述がある言語は少ない。

4.2 調節：修正の方略 (§3.4.2)

- 聞き手が前提誘発子により誘発される前提の内容が共通基盤にないと考える場合、たいていの場合は、前提は失敗せず、コミュニケーションが継続する。
- 聞き手は、あたかも前提の内容が共通基盤にあったかのように、前提を受け入れ、自分の共通基盤が話し手のものと一致するように**調節** (accomodate) する。

(17) A: **メール**見なかったの？
（**存在前提** (existential presupposition)：「A が送ったメールがある」）
B: え、メールくれたんですか？すみません。見ませんでした。

- 前提の調節が起こることを想定して、話し手が聞き手の知らない情報を前提として伝えることがよくある。
- つまり、前提の定義には「話し手と聞き手がともに知っている」というようなことは入らない。cf. (11)

(18) I am asked by someone who I have just met, “Are you going to lunch?” I reply, “No, I’ve got to pick up my sister.” Here I seem to presuppose that I have a sister even though I do not assume that the speaker knows this.
（会ったばかりの人に「昼ごはんに行くんですか？」と訊かれ、「いいえ、妹を迎えに行かなくちゃいけないんです」と答える。この時私は、たとえ相手がそれを知っていると想定していなくても、自分に妹がいるということを前提としているようだ。）(Stalnaker 1974:202)

4.3 前提の語用論的側面と意味論的側面 (§3.4.3)

- 前提は、特定の発話場面における話し手と聞き手の共通基盤に言及するため、語用論の問題であるとされる。
- しかし、前提が失敗すると文の真偽値が決定できなくなることがあり、前提には意味論的な側面もある。

(19) a. フランスの現在の国王は禿げている。
b. フランスの現在の国王は禿げていない。

参考文献

Stalnaker, Robert. 1974. Pragmatic presuppositions. In *Semantics and Philosophy*, ed. Milton K. Munitz and Peter K. Unger, 197–213. New York: New York University Press.